

イギリスの工場様式を取り入れたノコギリ屋根工場

# 大／阪／の／建／築／まちあるき——「東大阪」

かわちせいこうしょ  
河内製綱所



ノコギリ屋根工場棟内部



ノコギリ屋根工場棟内部



ノコギリ屋根工場棟外観



工場入口事務所棟

所在地： 東大阪市衣摺 3-5-15  
最寄駅： 近鉄大阪線弥刀駅より徒歩 10 分  
見学： 非公開  
参考： 「東大阪市の建造物」  
東大阪市教育委員会

群馬県桐生市のノコギリ屋根工場群が、近代化産業遺産として注目を浴びているが、東大阪市にもあった。

現在も燃糸（よりいと）によりロープ・網等を制作し操業している工場で、今はトタン板で覆われているが元は板壁でノコギリ屋根の木造平屋建て工場棟（建築面積約3,000㎡）とその前に接続する木造2階建て事務所棟である。

この工場は、それまでの工場が昭和19年の地震（東南海地震）によって倒壊したため、陸軍より払い下げられた資材をもとに昭和22年に建築されている。陸軍からの原材支給の理由としては、当工場が陸軍の防護ネットや歩兵用の雑囊ベルト等を製造する軍需工場であったことによる。ノコギリ屋根の様式は、戦前に八尾市へ進出していたイギリス企業の工場様式を取り入れ、日本の建築技術で施行されたようだ。広い工場内部に自然光をできるだけ多く取り入れようとする目的通り、内部に入ると、照明なしでも予想以上に明るいことに驚かされる。また、可動式の板壁による自然換気の工夫もみられる。戦前戦後を通じて電力事情の悪かった時代背景を反映した建築形態だが、現在でもその利点は有用で、エコロジーが、叫ばれる今日では、より求められる様式であるように思う。

余談だが、この様なイギリス企業との縁が、東大阪市の花園ラグビー場建設に繋がったのかもしれない。

（川北武志）